

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを とともに生きよう感謝の心で



学校だより

9月号

横浜市立谷本小学校
令和5年8月29日

HP アドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamoto/>



「やってみよう 自分から」

校長 高橋 哲雄

今年の夏休みは数年ぶりに地域の夏まつりなどが行われ、どこも大変な人出でした。本校の子どもたちも、友達同士や家族と一緒に楽しく過ごしている姿をたくさん見かけました。その他にも夏休みだからこその様々な経験をする事ができたのではないのでしょうか。さて、今日から子どもたちの笑顔が学校に戻ってきました。久しぶりの学校生活へ向けて目を輝かせている子どもたちです。この時期は学習内容も学校行事も充実しています。長い休みだったからこそその経験やリフレッシュを生かして、子どもたち一人ひとりの「自分から」の気持ちを大切に、引き続き教育活動に取り組んでまいります。



6月27日に、青葉公会堂を会場に、青葉区小学校国際平和スピーチコンテストが開催されました。本校からも代表児童が参加しました。6年生全員が「国際平和のために、自分がやりたいこと」をテーマに学習に取り組み、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標を意識して広く世界に目を向けて考える良い機会になりました。

「海にプラスチック」

僕は、世界の中でプラスチックが大量に海などに捨てられ流れていることをニュースで知りました。プラスチックというものは丈夫で素晴らしいものですが、恐ろしいものでもあります。

みなさんは、海にごみを捨てない、という言葉を知っていますか。海にごみを捨てないというのは常識だと思う人もいると思います。そうです。常識なのです。みなさんは、いま世界で起きているプラスチックの問題について聞いたことはありますか。僕は家族で海に行くのが大好きです。でも僕は海に行ったときにこんなに美しい海にプラスチックごみがなぜ捨ててあるのだろうと疑問に思いました。調べてみると僕たちが使うペットボトルやビニール袋などが年間900万～1400万トンも海に流れています。これは大変なことなのです。そして流れてきたプラスチックごみをエサと勘違いして食べてしまう魚や鳥がいます。やがてエサを食べられなくなり亡くなってしまいます。この状況はどうしようもない、自分には関係のないことだと思っていたらどんどんプラスチックごみが海に流されて汚くて入れなくなったり、魚がプラスチックを食べてしまい死んでしまったり魚が減り、ついには食べるができなくなります。それは非常に残念なことです。工場や家庭からの排水、ごみなどの廃棄物など、有害な物質が生き物を苦しめ、魚を食べる僕たちにも悪影響を及ぼすこととなります。そんなのはいやです。そこで自分にできることはあるのか考えてみました。2つあります。1つ目は海に行ったときみんなに声をかけることです。ごみを捨てたって誰かが拾ってくれると思う人がいるかもしれません。なのでこのようなことがおきていたら声をかけていきたいです。2つ目は海でごみを拾うということです。できるだけ多くのごみを拾って少しでも命を多く助けて海に影響がある有害な物質などをなくしたいと思います。海に行く回数は本当に少ないので海に行ったとしても1日でごみを拾うのはとても難しいです。このままだと、この状況が続いてしまいます。まずは自分でごみを管理しましょう。そして皆さんと協力して海に行ったらプラスチックなどを拾っていきたくです。海にごみが流れないように心がけていきましょう。環境と命のためにごみ拾いを積極的に取り組んで、環境に悪い廃棄物が海に入らないようにすることが環境を守り、平和につながると思います。命が失われない社会実現に向けて頑張っていきたいと思います。